

伯耆町

生活機能に関するアンケート集計結果

令和6年9月

鳥取県国民健康保険団体連合会
(健康・医療データ分析センター)

I はじめに

1 目的

伯耆町が令和6年3月に実施した生活機能に関するアンケート調査票を集計し、町および地区としての健康課題の把握を行い、健康づくり事業や介護予防事業に活用する。

2 アンケート実施方法

【対象者】

伯耆町の65歳以上の方（令和6年3月末時点）3,419人

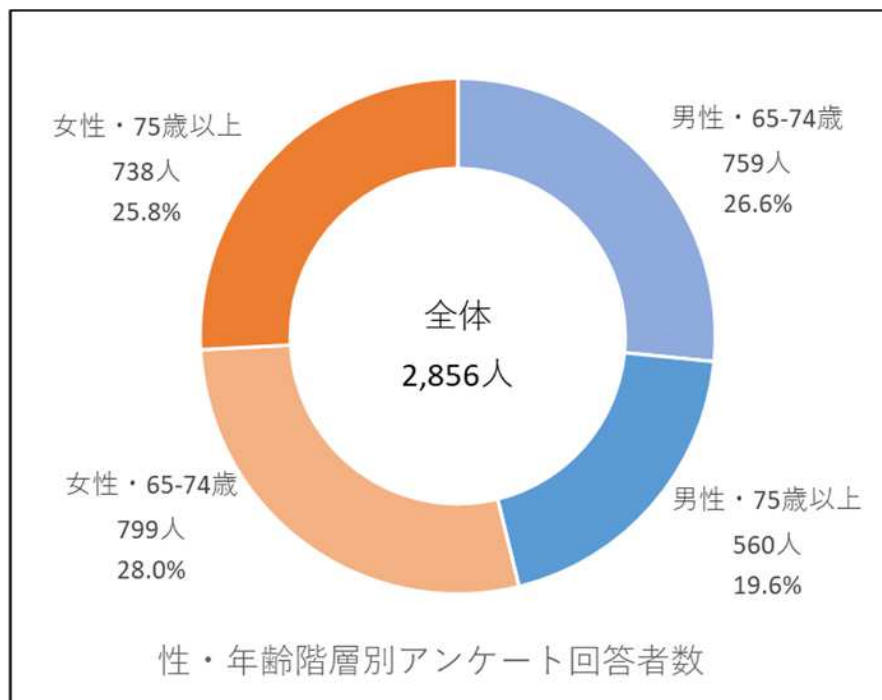
ただし、要支援・要介護認定者、住所地特例者などを除いている。

【アンケート回収方法】

保健委員により対象者への配布回収を行う。

ただし、自治体未加入者については郵送とする。

3 アンケート回答状況



※1問目に有効な回答を行った人を集計した。

4 その他

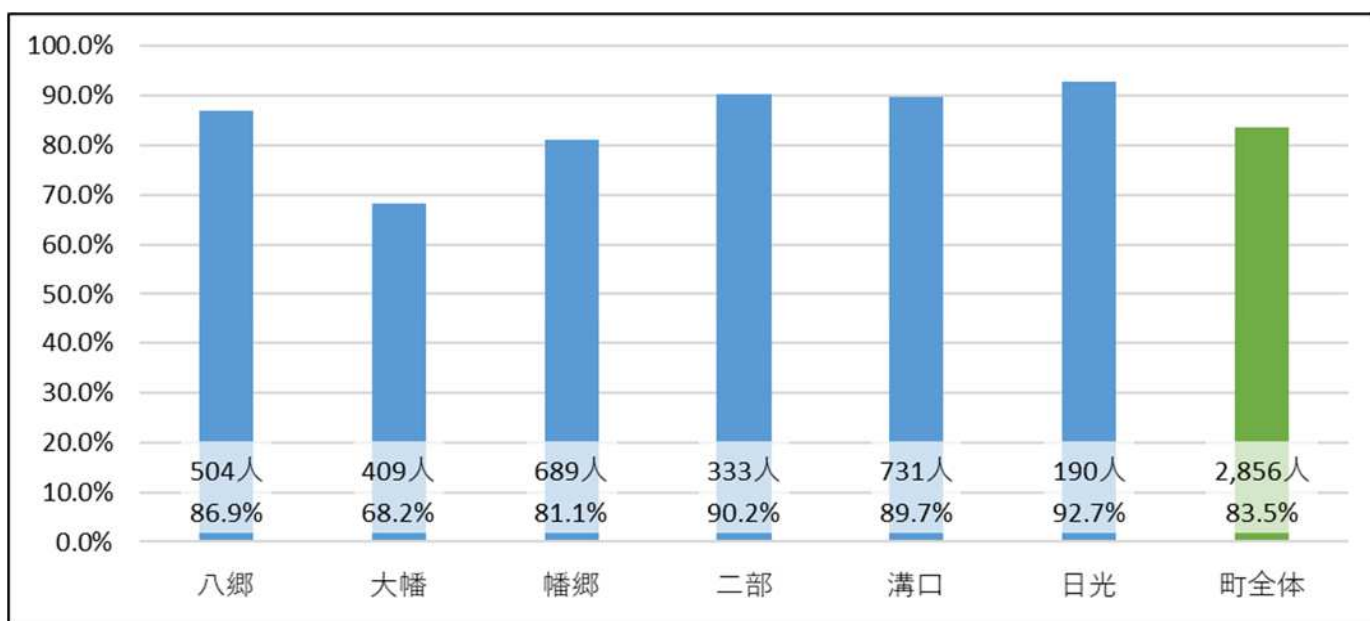
【未回答の取り扱い】

原則、各集計項目において、未回答項目があるデータは除いて集計する。

Ⅱ) データ集計

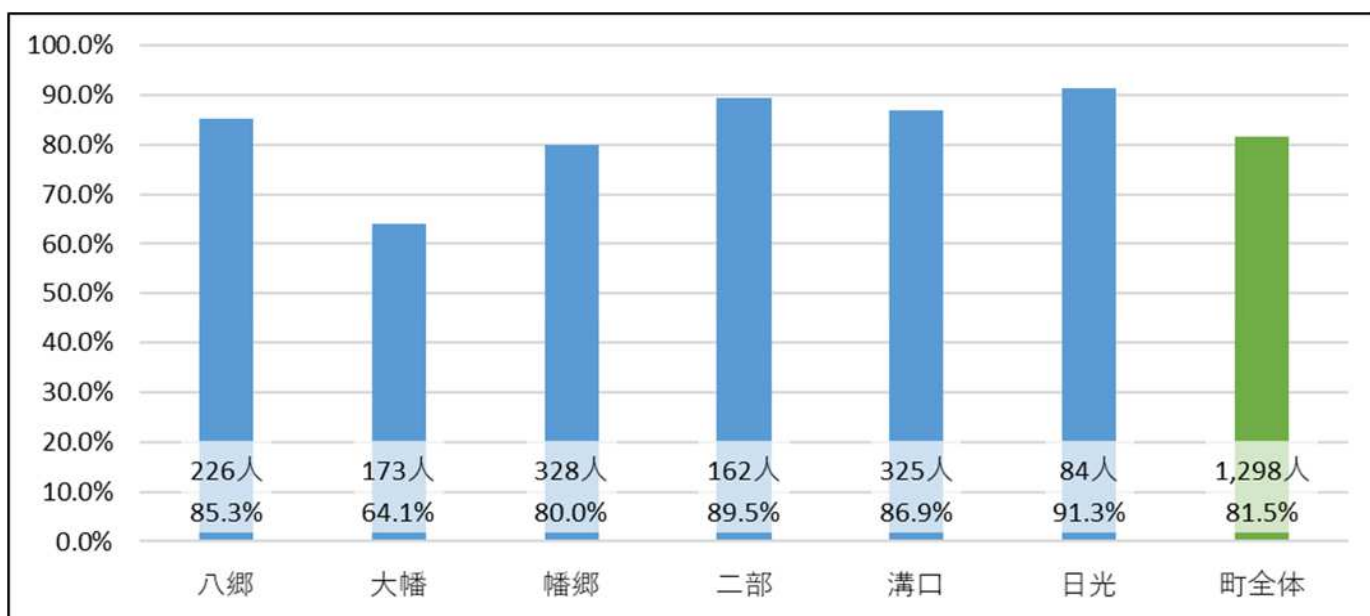
1. 地区別アンケート回答状況

町全体で2,856人がアンケートに協力し、回収率は8割を占め、多くの方にご協力いただいた。回収率が最も低い大幡においても約70%である。



2. 地区別アンケート回答状況（75歳以上）

75歳以上のみのアンケート回収率も8割を超えており、全体の回収率とほとんど差がない。また、各地区の回収率も全体と同様の傾向が見られる。



Ⅱ) データ集計

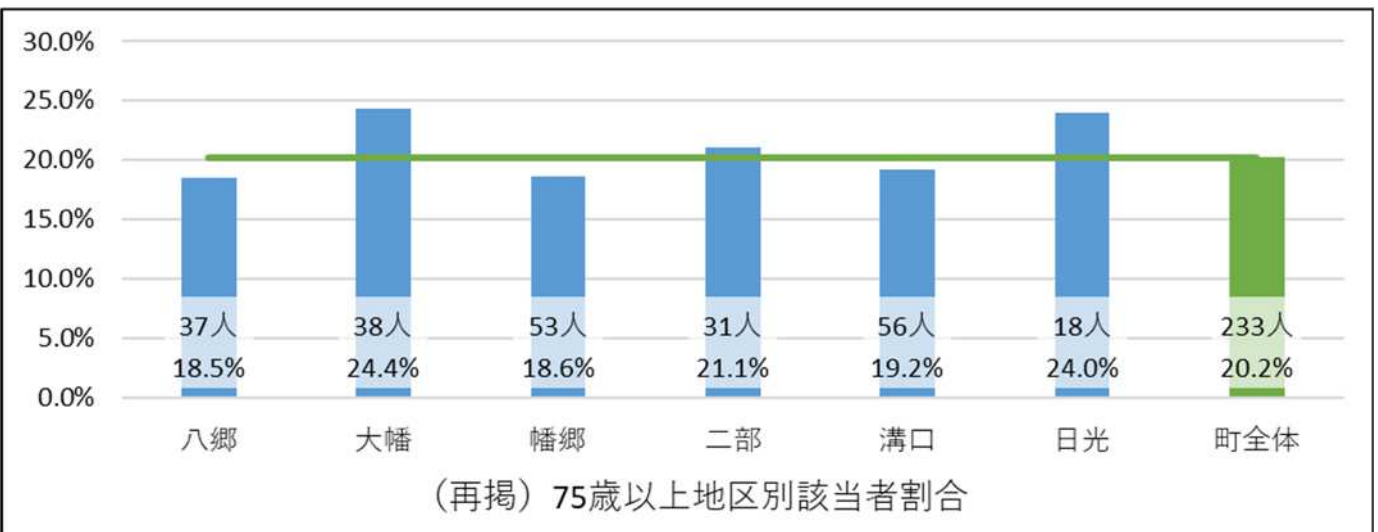
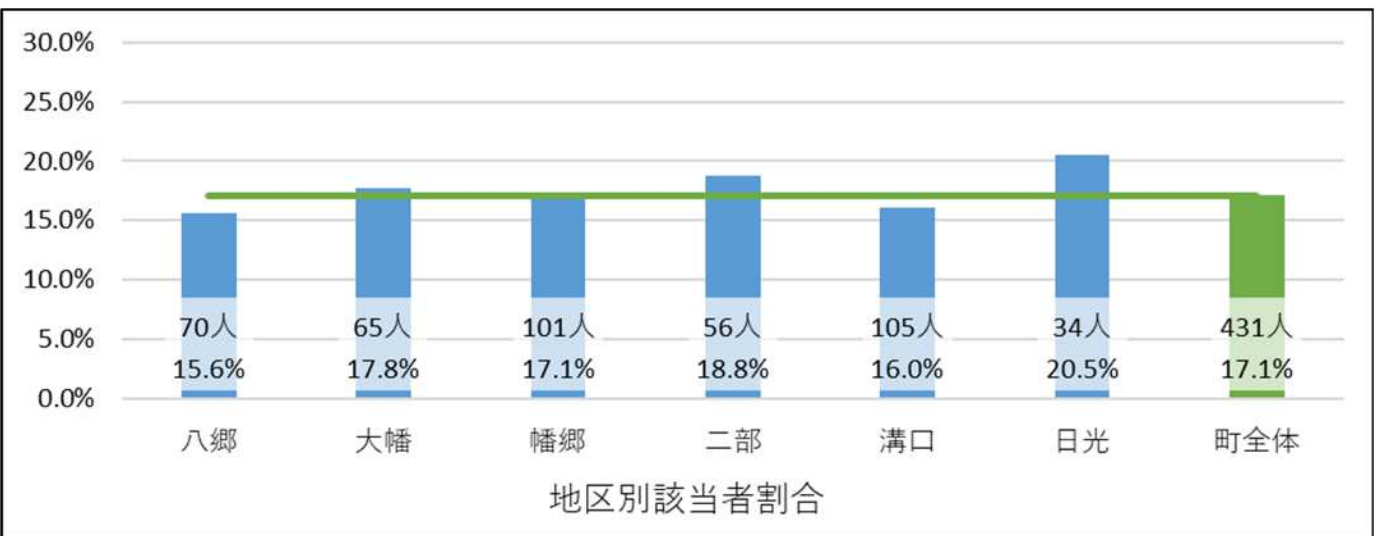
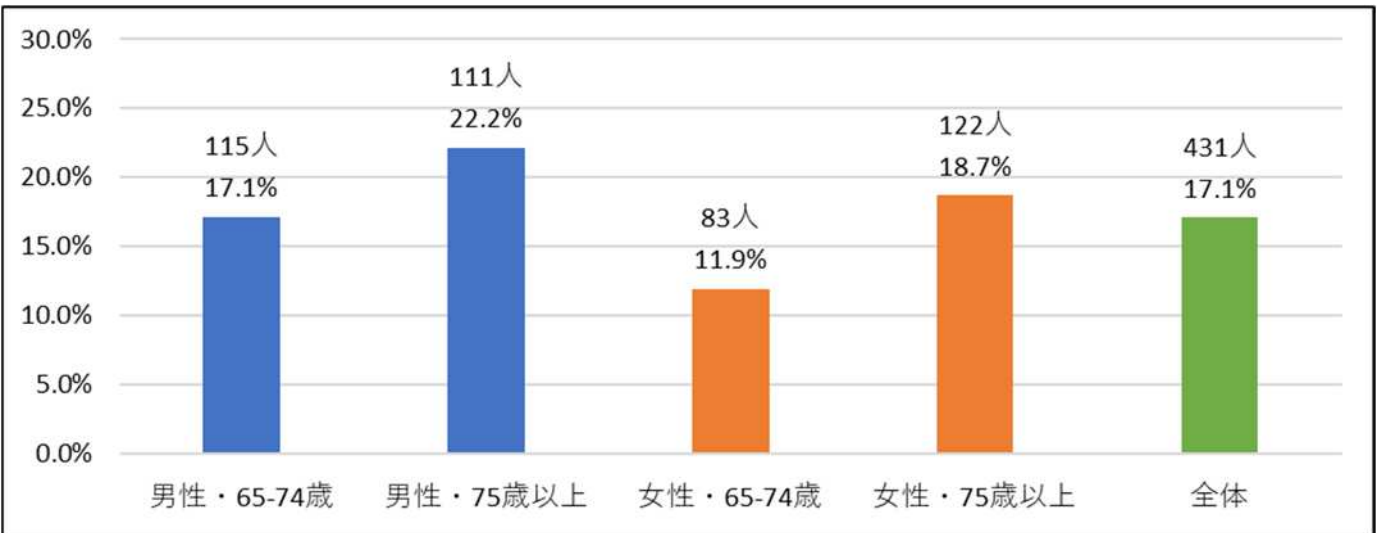
3. ①心身の健康状態リスク（いずれかに該当する人）

- ・ あなたの現在の健康状態はいかがですか→「あまりよくない」「よくない」
- ・ 毎日の生活に満足していますか→「やや不満」「不満」

心身のいずれかに不調、不満を抱えている人は、女性よりも男性のほうが多く、65-74歳よりも75歳以上のほうが多い。

心身の健康状態のリスクを抱える人が特に多い地区は、日光、二部地区である。

大幡地区は町全体よりやや高いが、75歳以上に限定した場合町全体よりも4ポイントも高くなっている。



Ⅱ) データ集計

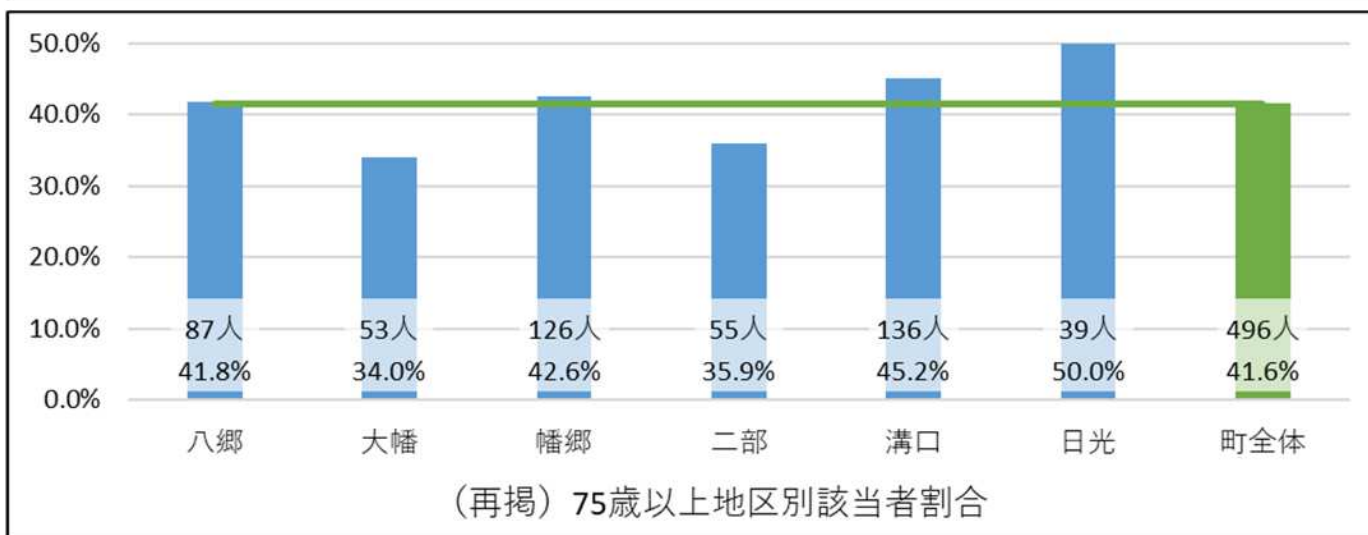
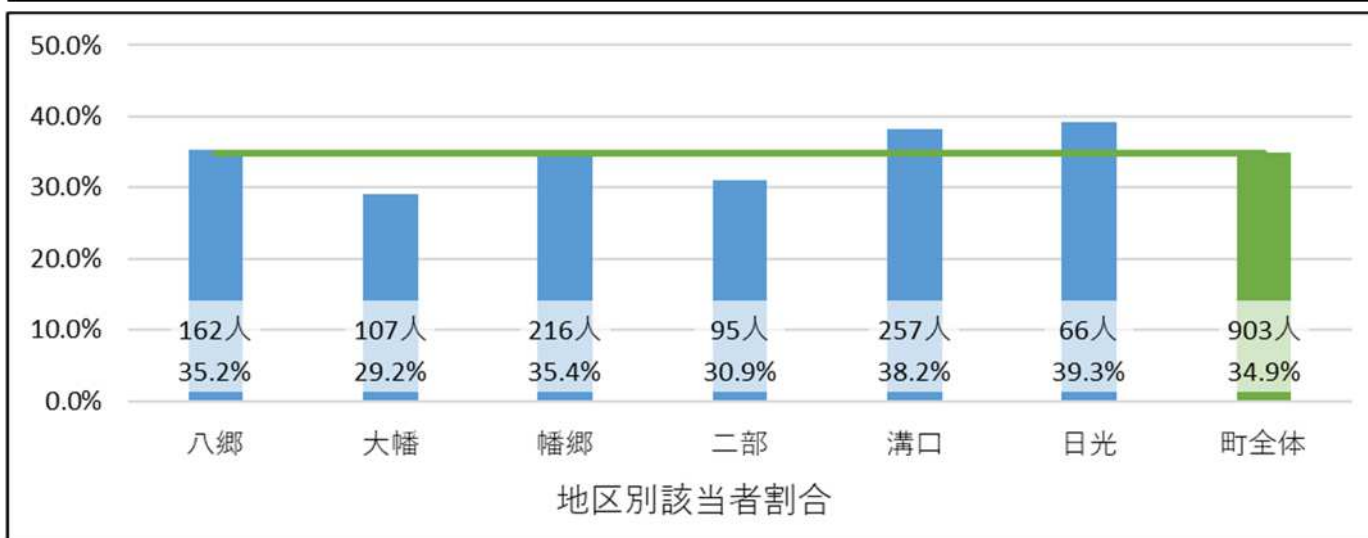
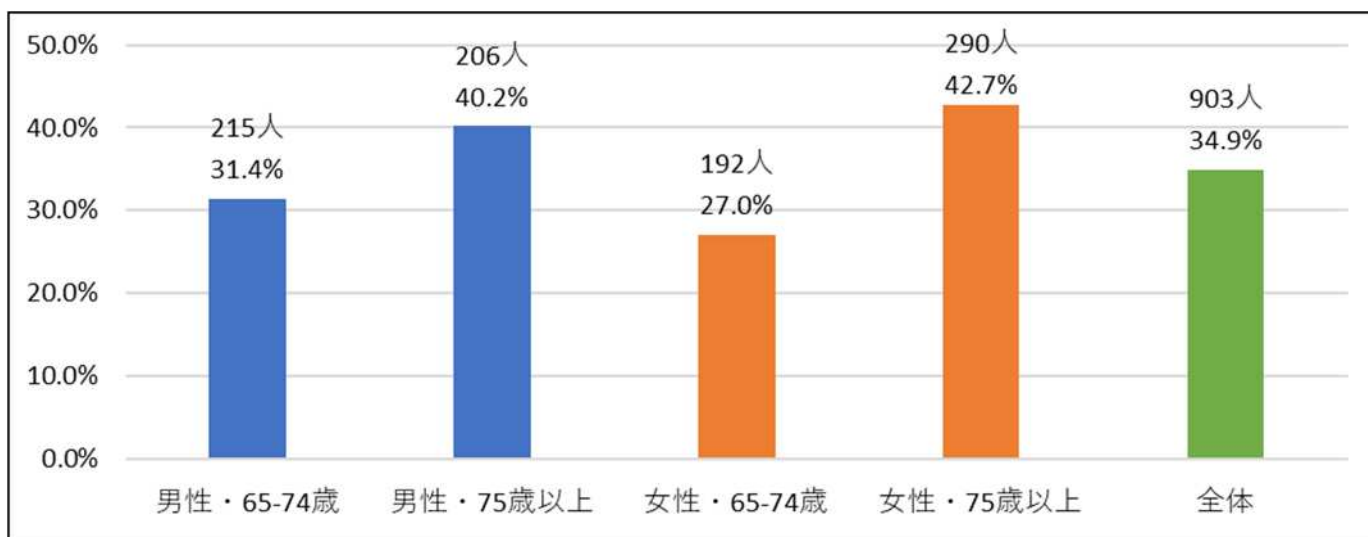
4. ②口腔機能リスク（いずれかに該当する人）

- ・ 半年前に比べて固いもの（さきいか、たくあんなど）が食べにくくなりましたか→「はい」
- ・ お茶や汁物等でむせることがありますか→「はい」

口腔ケアが必要と思われる人は、65-74歳では男性のほうが多いが、75歳以上では女性のほうが多く、逆転している。

口腔ケアが必要と思われる人が特に多い地区は、日光、溝口地区である。

75歳以上についても、地区の傾向は変わらない。



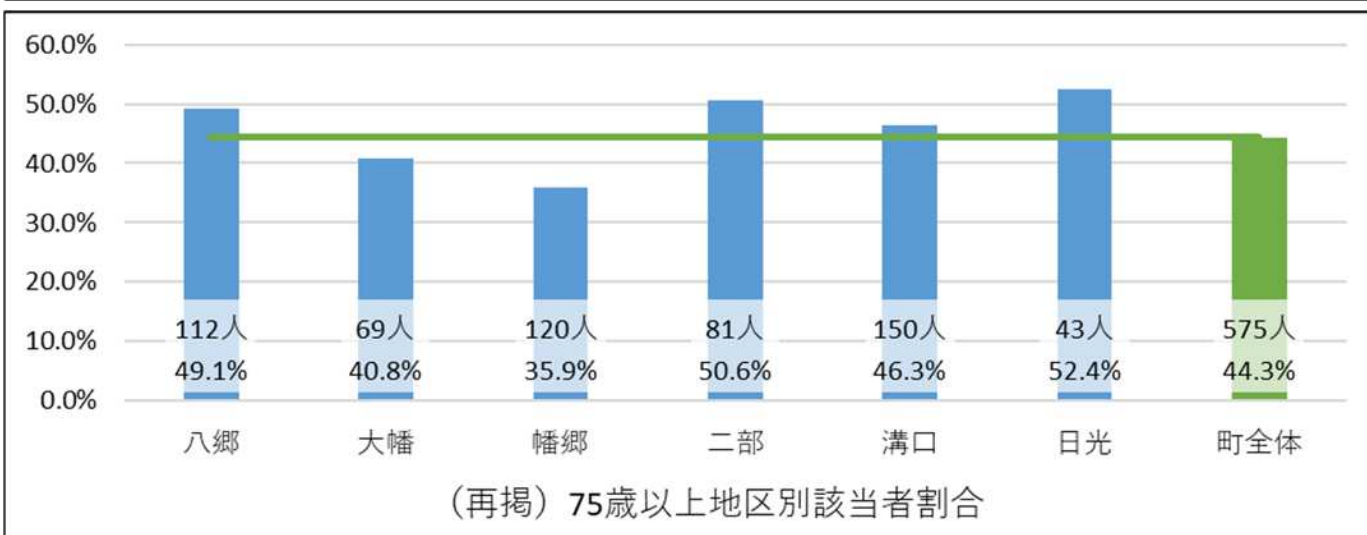
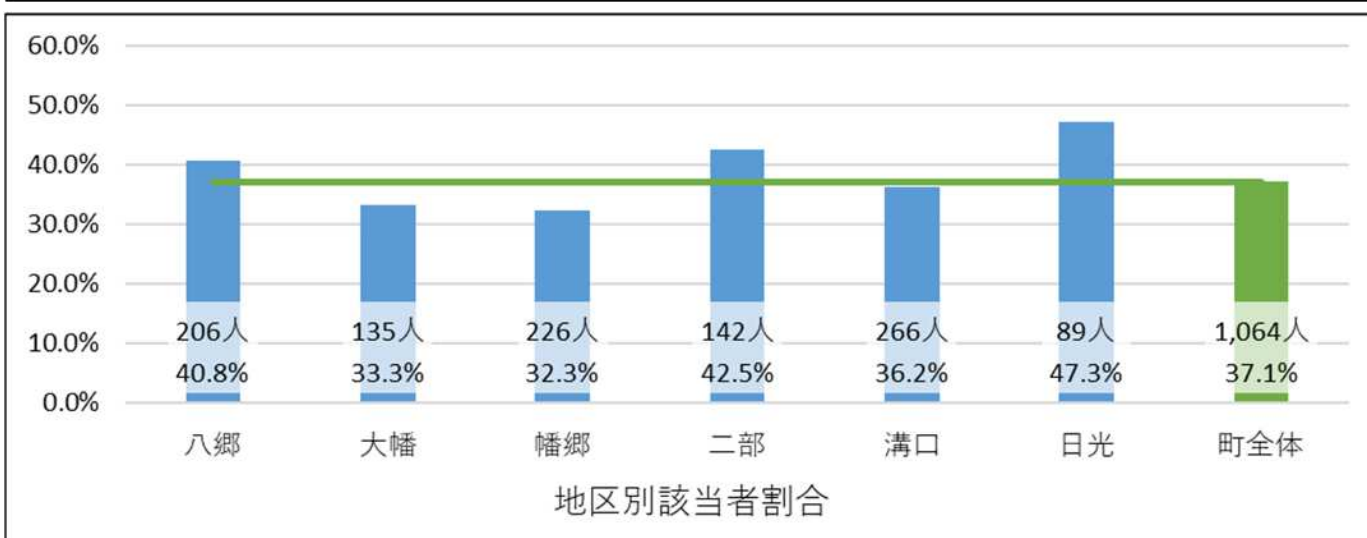
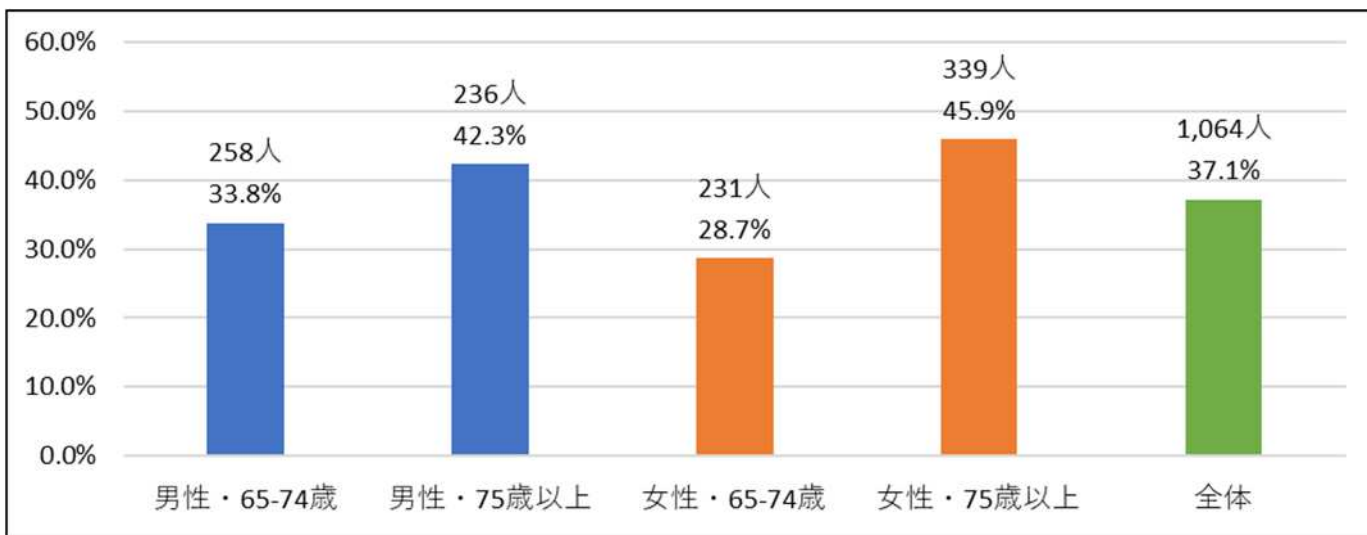
Ⅱ) データ集計

5. ③運動転倒リスク（以下の2項目以上に該当する人）

- ・ 以前に比べて歩く速度が遅くなってきましたか→「はい」
- ・ この1年間に転んだことがありますか→「はい」
- ・ ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか→「いいえ」

運動習慣が定着できていない人や転倒したことのある人は、65-74歳では男性のほうが多いが、75歳以上では女性のほうが多く、逆転している。

運動習慣の定着や転倒防止の注意が必要と思われる人が特に多い地区は、日光、溝口地区だが、75歳以上については二部地区、八郷地区も多い。



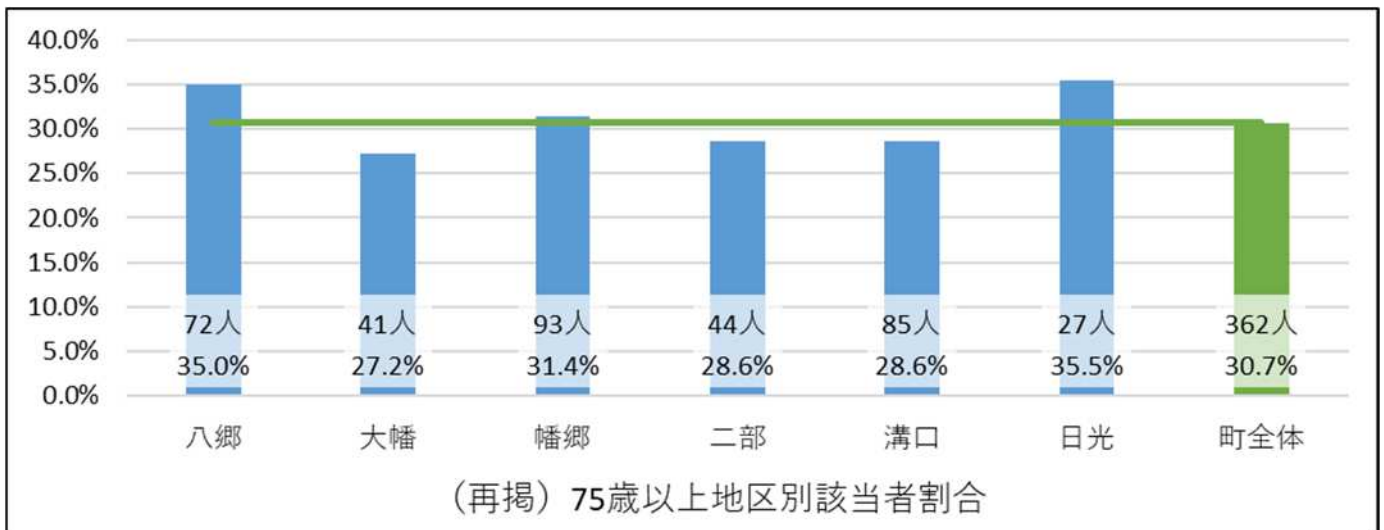
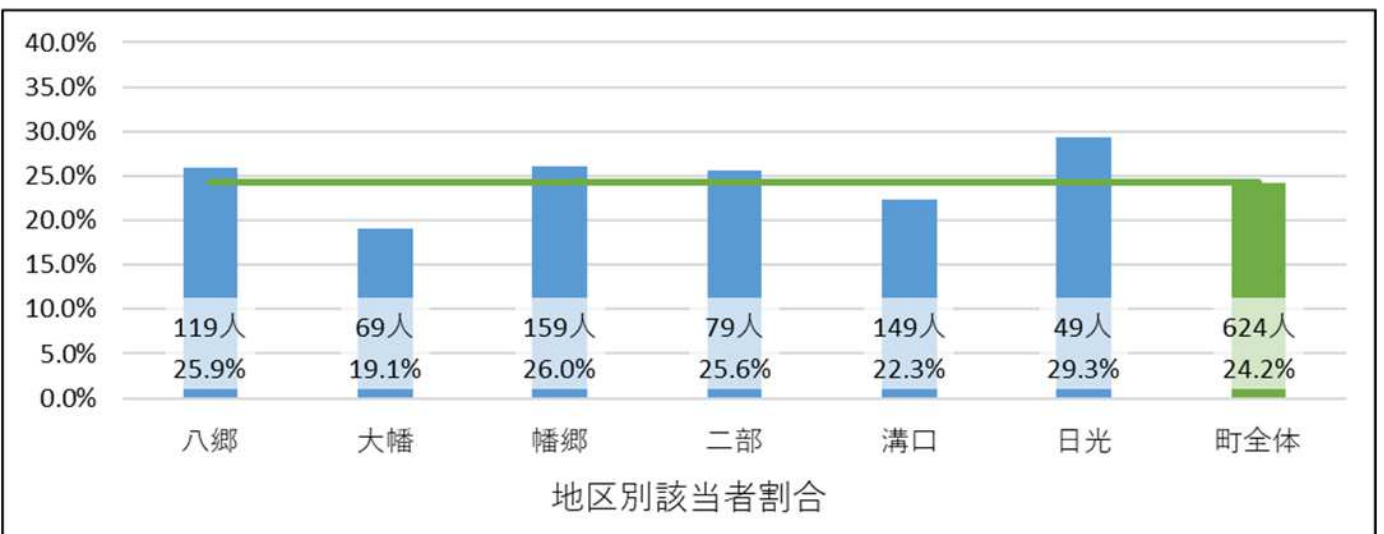
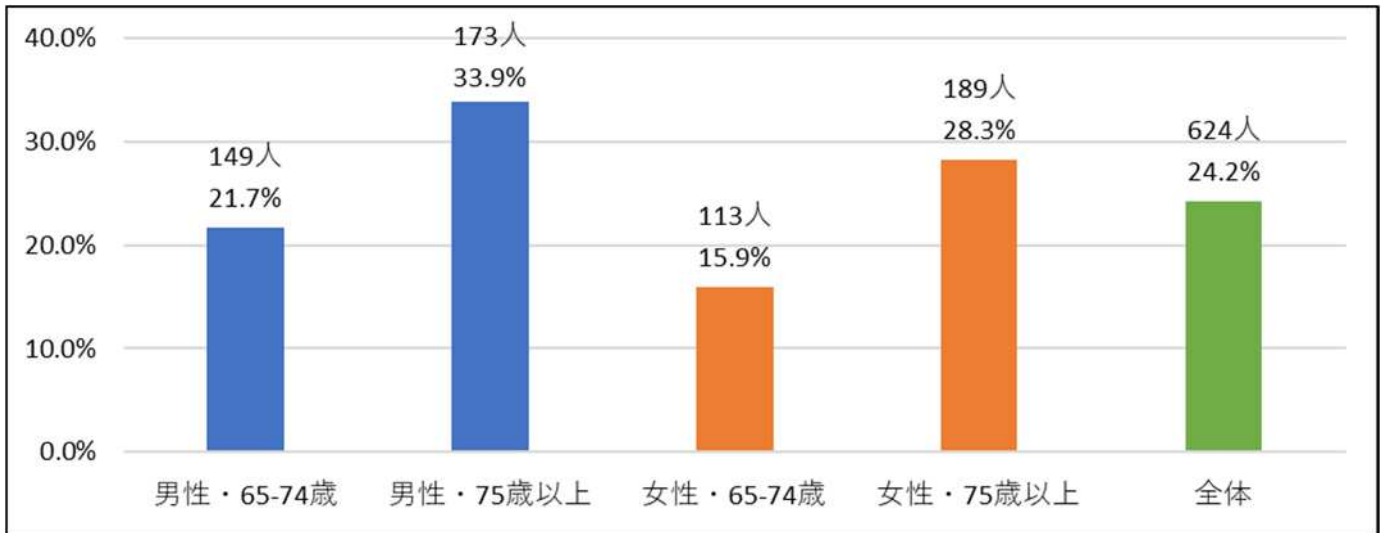
Ⅱ) データ集計

6. ④ 認知機能リスク（いずれかに該当する人）

- ・ 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると言われていませんか→「はい」
- ・ 今日が何月何日か分からない時がありますか→「はい」

認知機能に不安がある人は、女性より男性のほうが多く、65-74歳と比較すると75歳以上のほうが約1.5倍増加している。

認知機能に不安がある人が多い地区は、日光、幡郷地区だが、75歳以上については八郷地区も多い。



Ⅱ) データ集計

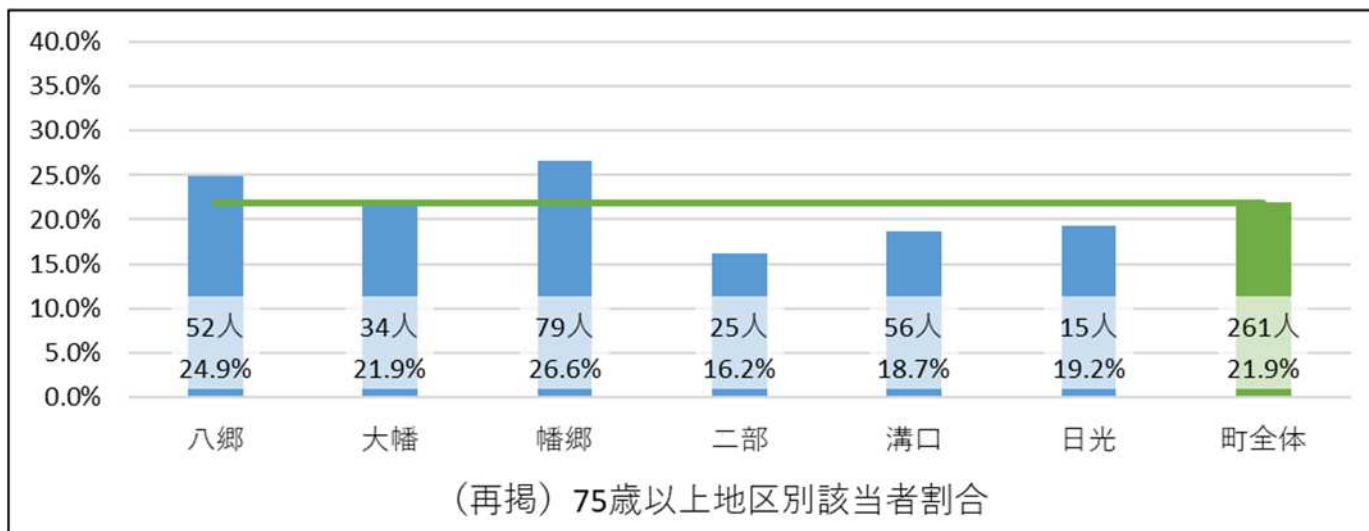
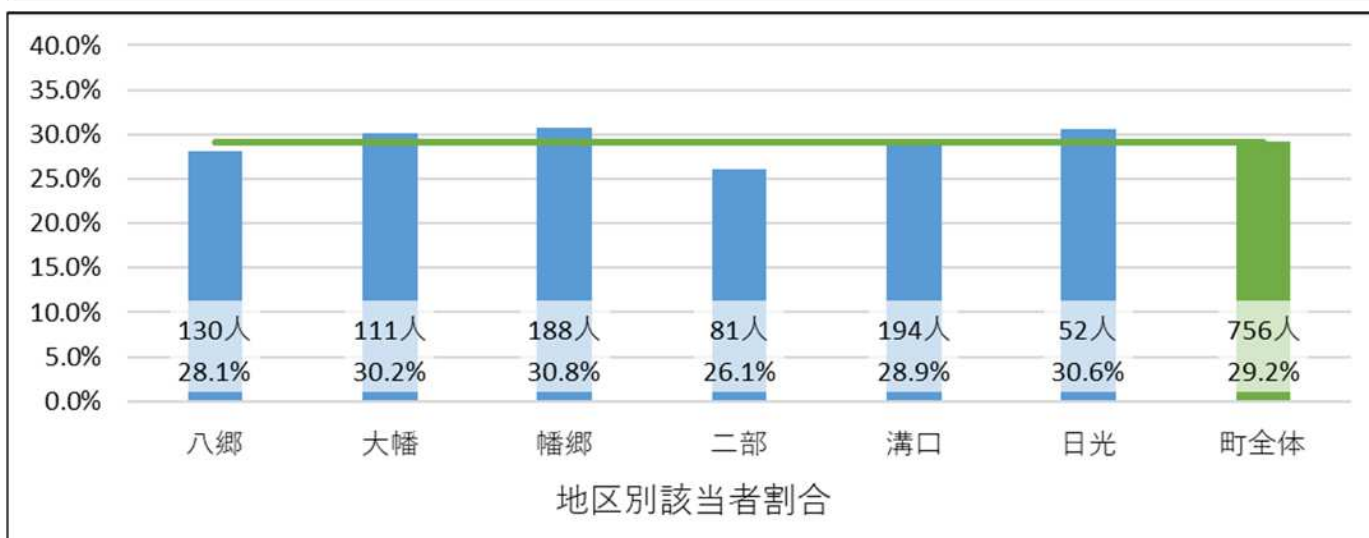
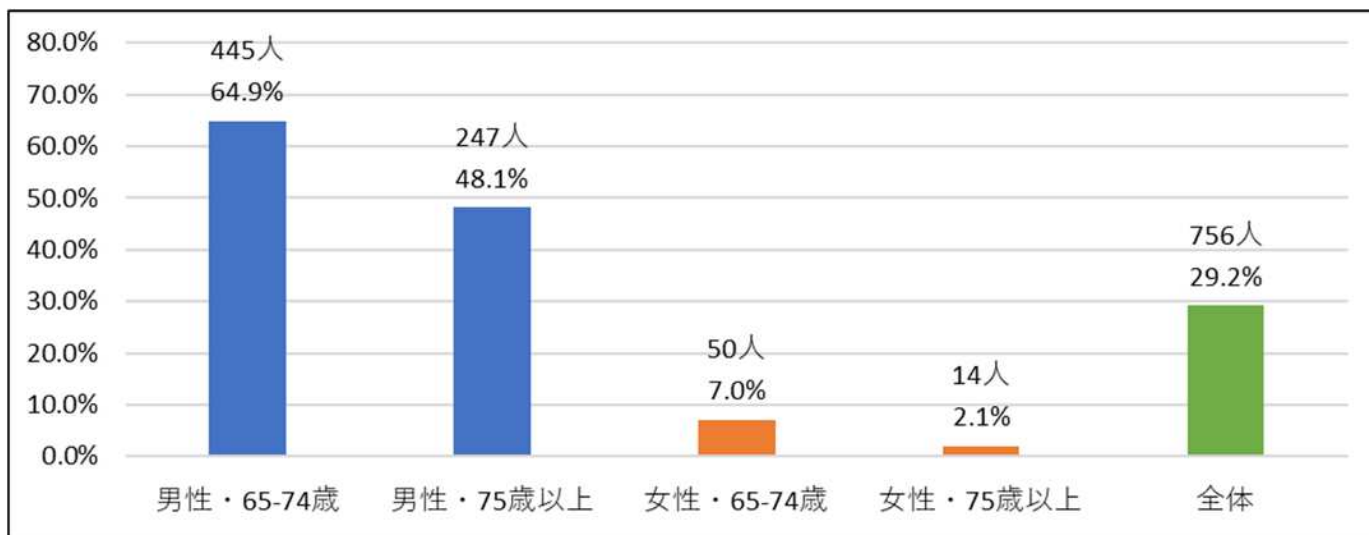
7. 喫煙リスク

- ・ あなたはたばこを吸いますか→「吸っている」または「やめた」

喫煙リスク（喫煙を行っているまたは喫煙をやめたと回答）を抱えている人は、女性よりも男性のほうが非常に多く、75歳以上よりも65-74歳のほうが多い。

喫煙リスクを抱えている人が多い地区は、幡郷、日光地区である。

また、八郷地区は全体としては町全体よりも低い、75歳以上については町全体よりも高い。



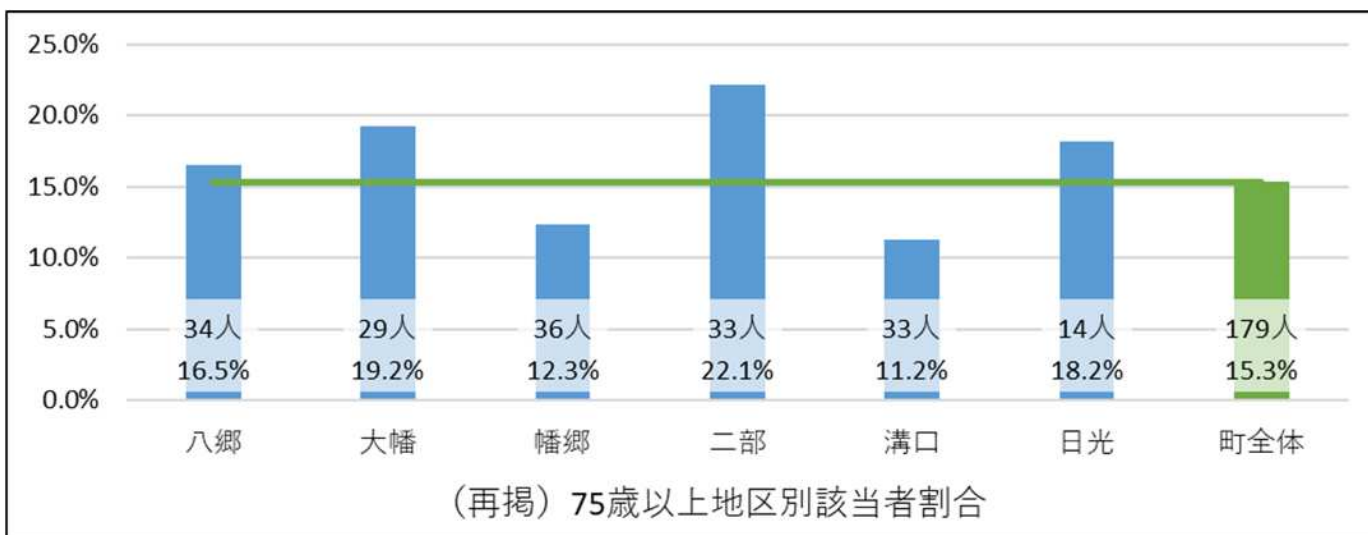
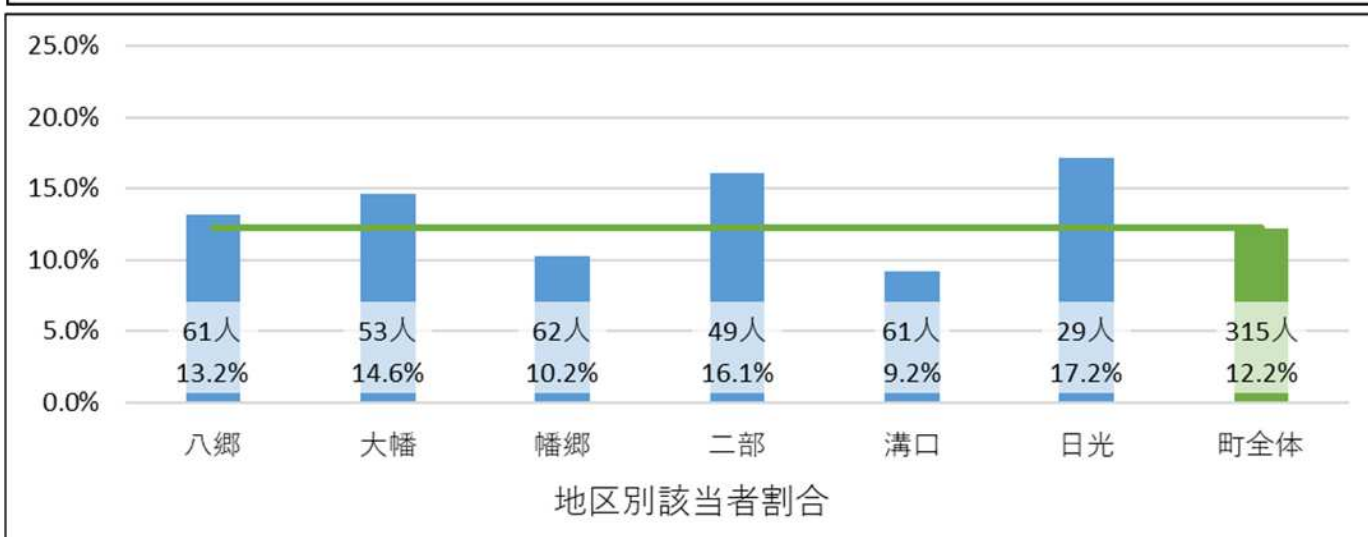
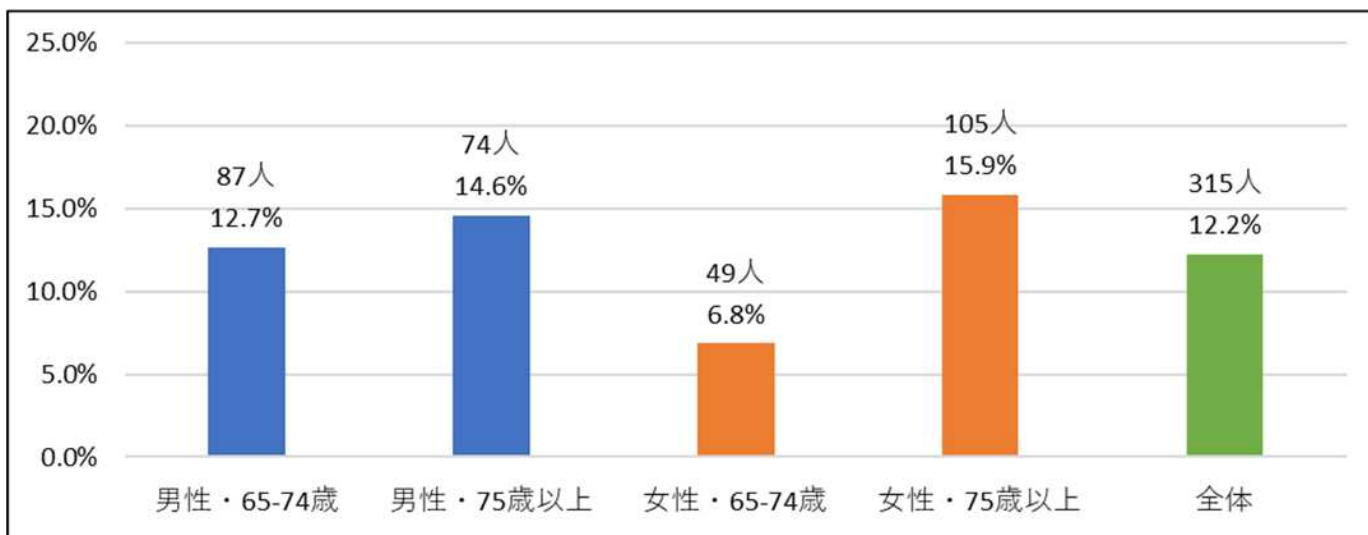
Ⅱ) データ集計

8. 社会参加等リスク（いずれかに該当する人）

- ・ 週に1回以上は外出していますか→「いいえ」
- ・ ふだんから家族や友人と付き合いがありますか→「いいえ」
- ・ 体調が悪いときに、身近に相談できる人がいますか→「いいえ」

付き合いのある人や相談できる人がいない等と回答した社会参加等リスクを抱えている人は、65-74歳では男性のほうが多いが、75歳以上では女性のほうが多く、逆転している。

社会参加等リスクを抱えている人が多い地区は、日光、二部地区だが、75歳以上については特に二部地区が大きく増加している。



Ⅲ) 圏域別集計結果

9. フレイルのハイリスク者

①判定方法について

後期高齢者の質問票に該当する項目のうち、フレイル関連12項目（下表の黄色項目）において、健康リスクにつながる回答（灰色項目）が4項目以上該当する人をハイリスク者とする。

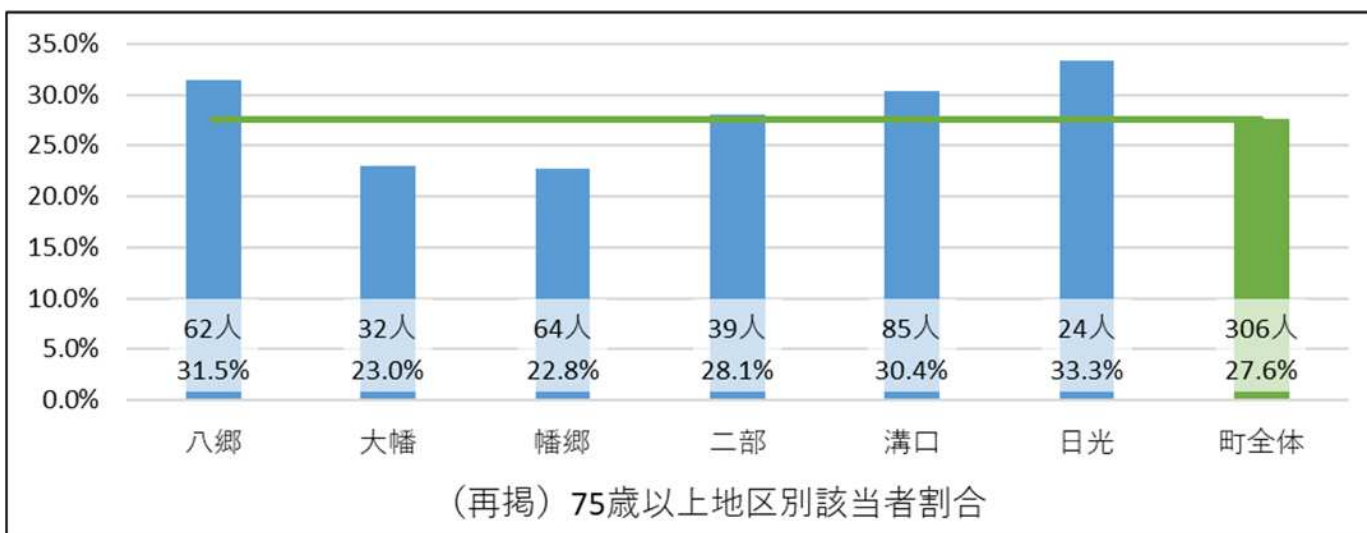
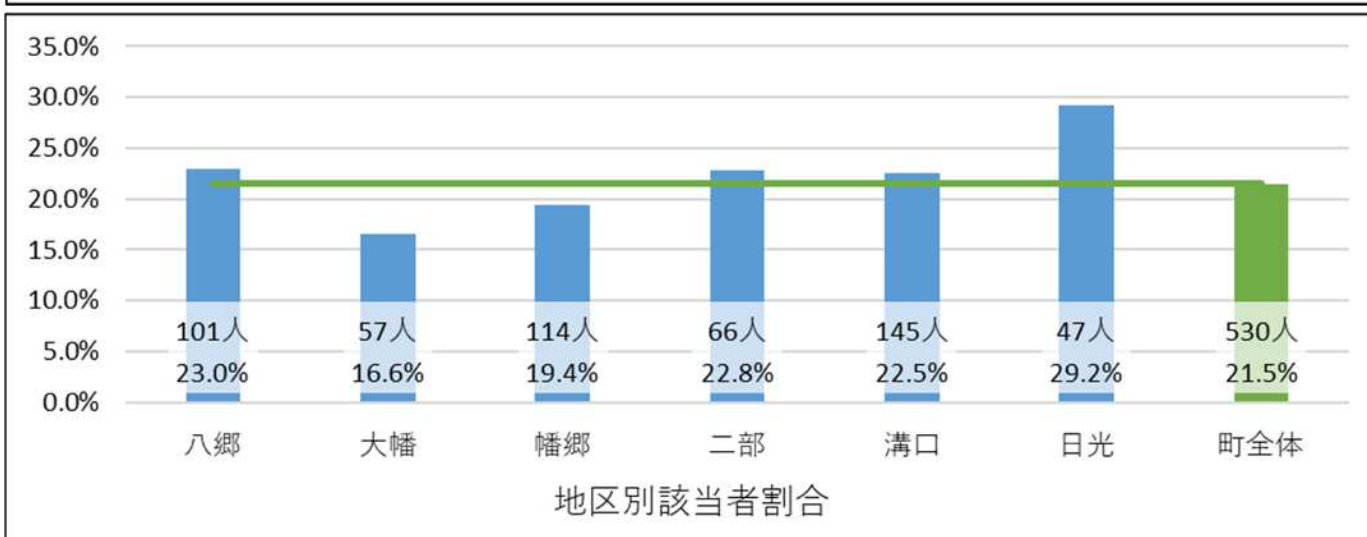
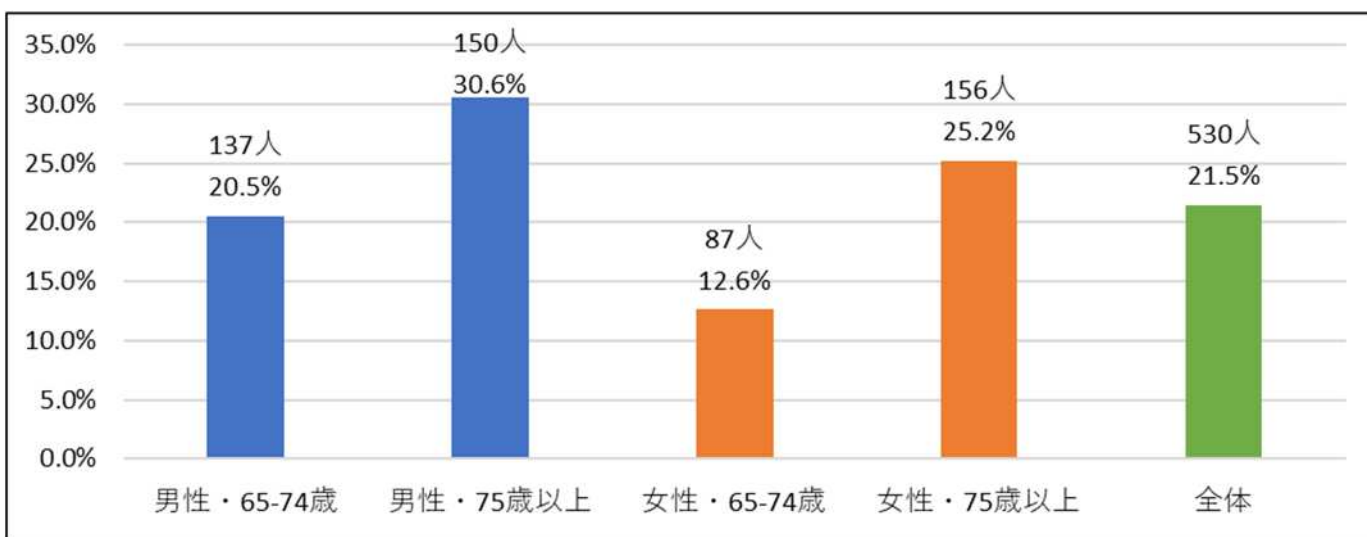
類型名	No.	質問項目	回答	
健康状態	1	あなたの現在の健康状態はいかがですか	①よい ②まあよい ③ふつう	④あまりよくない ⑤よくない
心の健康状態	2	毎日の生活に満足していますか	①満足 ②やや満足	③やや不満 ④不満
食習慣	3	1日3食きちんと食べていますか	①はい	②いいえ
口腔機能	4	半年前に比べて固いもの（※）が食べにくくなりましたか ※さきいか、たくあんなど	①はい	②いいえ
	5	お茶や汁物等でむせることがありますか	①はい	②いいえ
体重変化	6	6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	①はい	②いいえ
運動・転倒	7	以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか	①はい	②いいえ
	8	この1年間に転んだことがありますか	①はい	②いいえ
	9	ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか	①はい	②いいえ
認知機能	10	周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると言われていませんか	①はい	②いいえ
	11	今日が何月何日かわからない時がありますか	①はい	②いいえ
喫煙	12	あなたはたばこを吸いますか	①吸っている	②吸っていない ③やめた
社会参加	13	週に1回以上は外出していますか	①はい	②いいえ
	14	ふだんから家族や友人と付き合いがありますか	①はい	②いいえ
ソーシャルサポート	15	体調が悪いときに、身近に相談できる人がいますか	①はい	②いいえ

Ⅱ) データ集計

②フレイルのハイリスク者の該当者割合

フレイルのハイリスク者は女性よりも男性のほうが多く、65-74歳よりも75歳以上の割合のほうが男性では1.5倍、女性では2倍多くなっている。

フレイルのハイリスク者が多い地区は、日光、八郷地区であり、75歳以上についても傾向は同様である。



Ⅲ）圏域の傾向

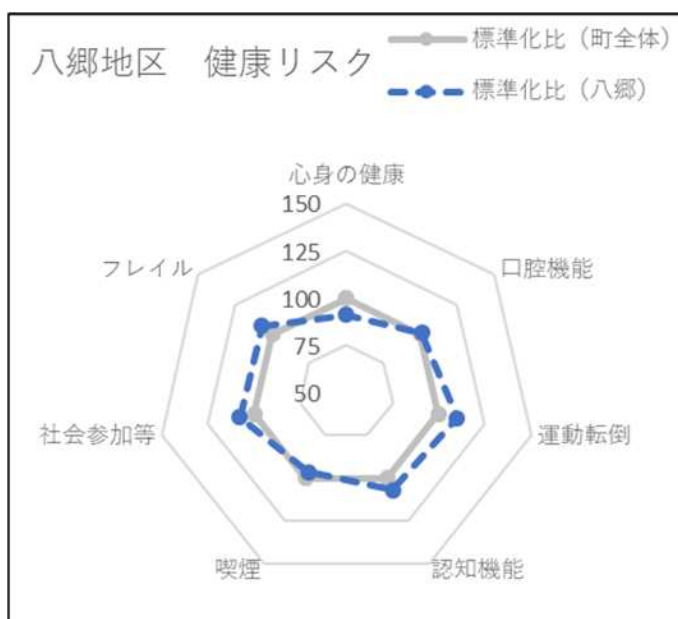
1. 圏域の傾向

各圏域のレーダーチャートから、各圏域の考察を行う。

【表およびレーダーチャートの説明】（例として、八幡地区を示す）

- ・各リスクはp.4～9の条件により集計し、健康リスクの保有者の人数および割合を集計している。
- ・標準化比とは、町全体の割合を100としたときの当該地区の状況を示しており、数値が100を超えている場合は町全体より対象者割合が高く、標準化比が高いほど、対象者割合が高いことを示す。
- ・レーダーチャートは、外側に出ているほど、対象者割合が高いことを示す。

リスク	人数	割合 (八郷)	割合 (町全体)	標準化比
回答者数	503人	—	—	—
心身の健康	70人	16%	17%	91
口腔機能	162人	35%	35%	101
運動転倒	206人	41%	37%	110
認知機能	119人	26%	24%	107
喫煙	130人	28%	29%	96
社会参加等	61人	13%	12%	108
フレイル	101人	23%	21%	107



Ⅲ) 圏域の傾向

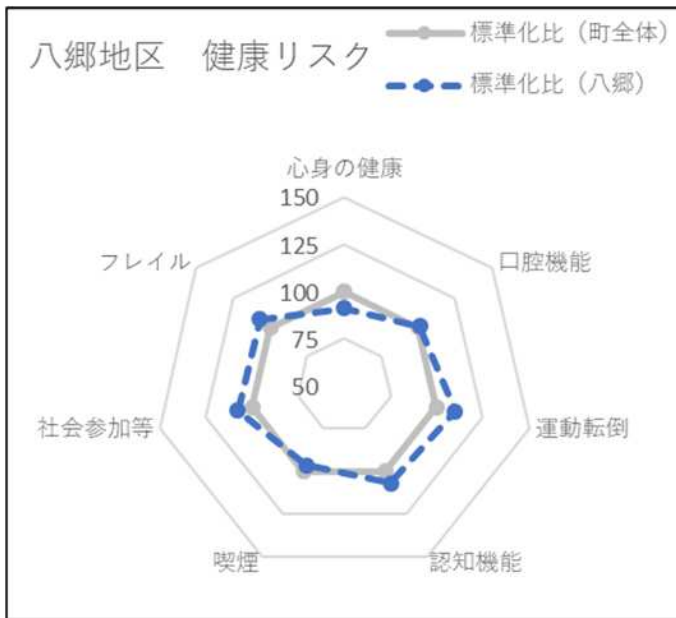
①八郷地区

運動習慣が定着していない人や転倒したことのある人が多く、社会参加等やフレイルリスクに該当する人も多い。

運動教室などで実施する内容を初めてでも参加しやすいものにしたり、レクリエーションを中心に地区の人と親しくなるようなものにするよう検討することができる。

運動習慣が定着したり、地域とのつながりが強くなることは、フレイルリスクの減少や認知機能の低下の改善にも効果があると思われる。

リスク	人数	割合 (八郷)	割合 (町全体)	標準化比
回答者数	503人	—	—	—
心身の健康	70人	16%	17%	91
口腔機能	162人	35%	35%	101
運動転倒	206人	41%	37%	110
認知機能	119人	26%	24%	107
喫煙	130人	28%	29%	96
社会参加等	61人	13%	12%	108
フレイル	101人	23%	21%	107

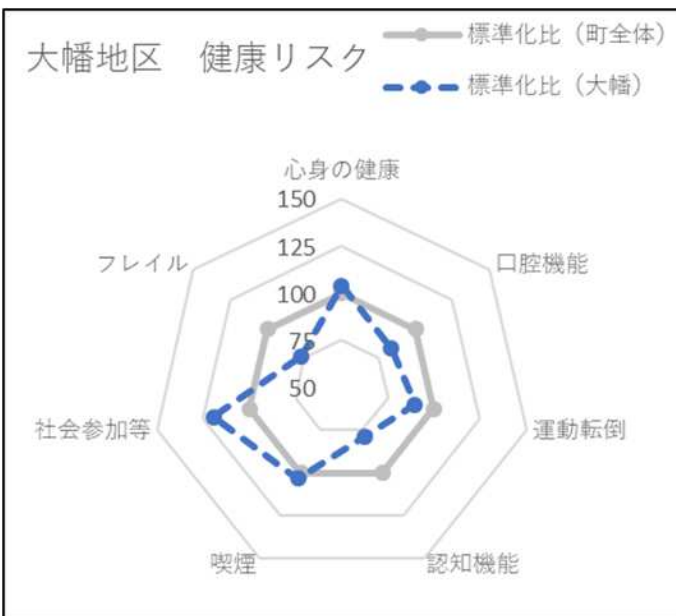


②大幡地区

フレイルリスクの該当者や認知機能に不安を感じている人が非常に少ない。

相談できる人や付き合いのある人が、身近にいない人が多いため、通いの場など地区の活動に初めてでも参加しやすい工夫を行うことができる。身近な相談相手ができることで、身体の不調や不安なことなどの解消につなげることができる。

リスク	人数	割合 (大幡)	割合 (町全体)	標準化比
回答者数	409人	—	—	—
心身の健康	65人	18%	17%	104
口腔機能	107人	29%	35%	83
運動転倒	135人	33%	37%	90
認知機能	69人	19%	24%	79
喫煙	111人	30%	29%	103
社会参加等	53人	15%	12%	119
フレイル	57人	17%	21%	77

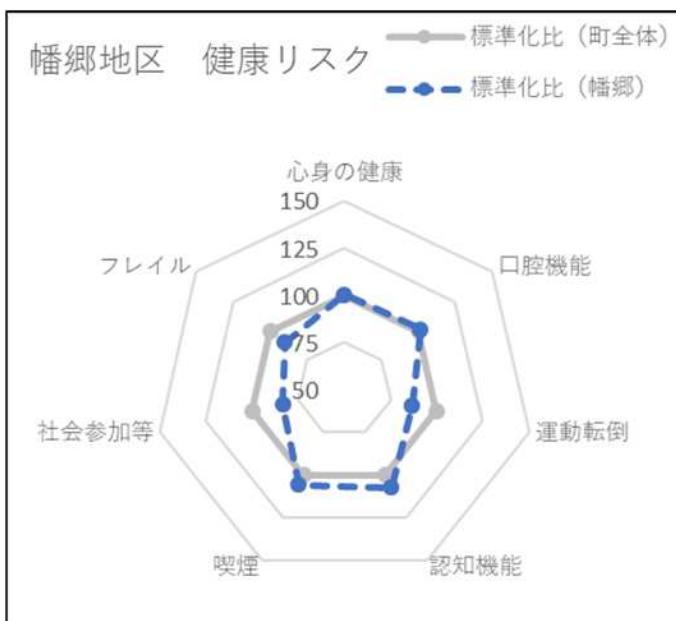


Ⅲ) 圏域の傾向

③ 幡郷地区

運動習慣が定着している人や、社会とのつながりがある人、フレイルリスクに該当しない人が多い。
一方で、認知機能に不安を抱えている人が多い。
そのため、身近な人と一緒に認知症予防教室に参加することができるよう、事業内容を検討することができる。

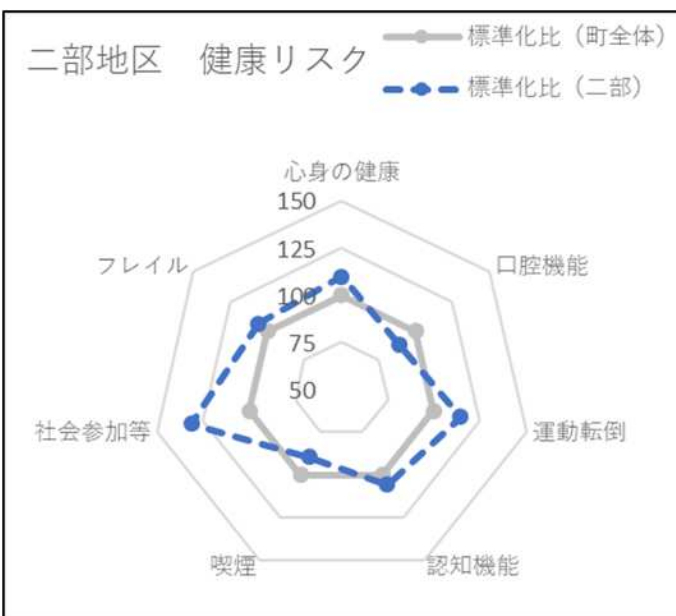
リスク	人数	割合 (幡郷)	割合 (町全体)	標準化比
回答者数	689人	—	—	—
心身の健康	101人	17%	17%	100
口腔機能	216人	35%	35%	101
運動転倒	226人	32%	37%	87
認知機能	159人	26%	24%	107
喫煙	188人	31%	29%	106
社会参加等	62人	10%	12%	83
フレイル	114人	19%	21%	90



④ 二部地区

相談できる人や付き合いのある人が、身近にいない人が多く、運動習慣が定着していない人や転倒したことがある人が多い。
運動教室などで実施する内容を初めてでも参加しやすいものにしたり、レクリエーションを中心に地区の人と親しくなるようなものにするよう検討することができる。
社会や地域とのつながりができることによって、心身の健康やフレイルリスクを抱えていても相談しやすくなり、より早期の段階で必要な医療受診や支援につながるものと思われる。

リスク	人数	割合 (二部)	割合 (町全体)	標準化比
回答者数	333人	—	—	—
心身の健康	56人	19%	17%	110
口腔機能	95人	31%	35%	89
運動転倒	142人	43%	37%	115
認知機能	79人	26%	24%	106
喫煙	81人	26%	29%	90
社会参加等	49人	16%	12%	131
フレイル	66人	23%	21%	106



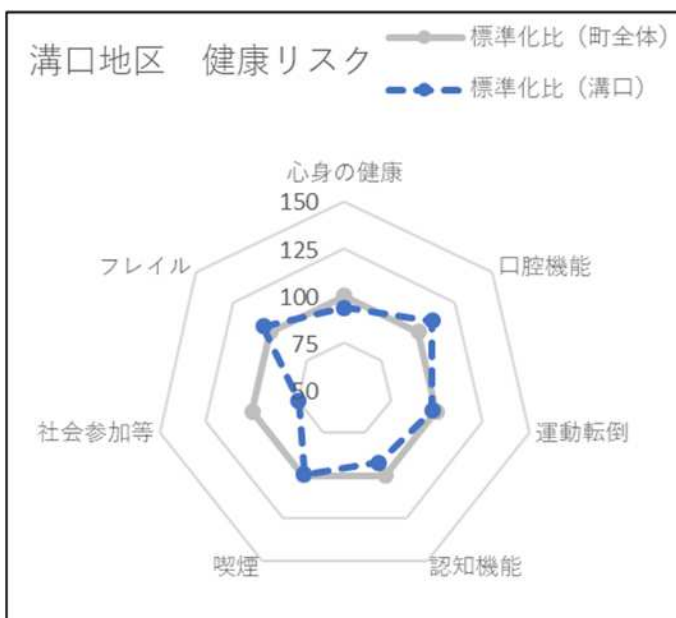
Ⅲ) 圏域の傾向

⑤ 溝口地区

社会とのつながりがある人が多く、認知機能に不安を抱えている人が少ない一方で、口腔ケアが必要な人が多い。

そのため、食事の際にかみにくい、むせることがある人を重点的に、歯科受診につなげることができる。また、治療後や自分の口腔状態は良いと感じている人でも、定期的に歯科受診を行い、口腔ケアを行うことの重要性、特にフレイル対策や認知機能の低下にもつながることを啓発することができる。

リスク	人数	割合 (溝口)	割合 (町全体)	標準化比
回答者数	731人	—	—	—
心身の健康	105人	16%	17%	94
口腔機能	257人	38%	35%	109
運動転倒	266人	36%	37%	98
認知機能	149人	22%	24%	92
喫煙	194人	29%	29%	99
社会参加等	61人	9%	12%	75
フレイル	145人	22%	21%	105



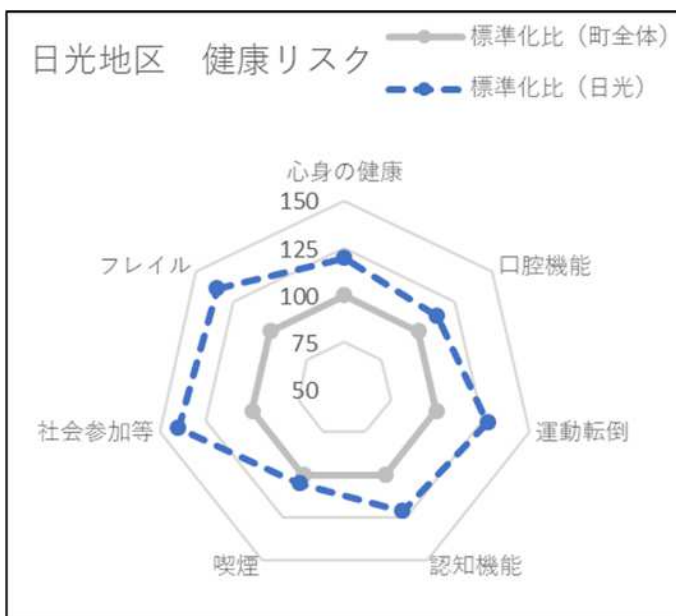
⑥ 日光地区

すべての項目において、町全体よりも高い状況にある。

特に、社会参加、フレイルリスク、運動転倒に関するリスク該当者の割合が高い。

運動教室を初めてでも参加しやすい内容に工夫したり、レクリエーションを中心に地区の人と親しくなるようなものにするよう検討することができる。また、困っていることを気軽に相談できるブースの併設も検討することができる。

リスク	人数	割合 (日光)	割合 (町全体)	標準化比
回答者数	188人	—	—	—
心身の健康	34人	20%	17%	120
口腔機能	66人	39%	35%	113
運動転倒	89人	47%	37%	128
認知機能	49人	29%	24%	121
喫煙	52人	31%	29%	105
社会参加等	29人	17%	12%	140
フレイル	47人	29%	21%	136

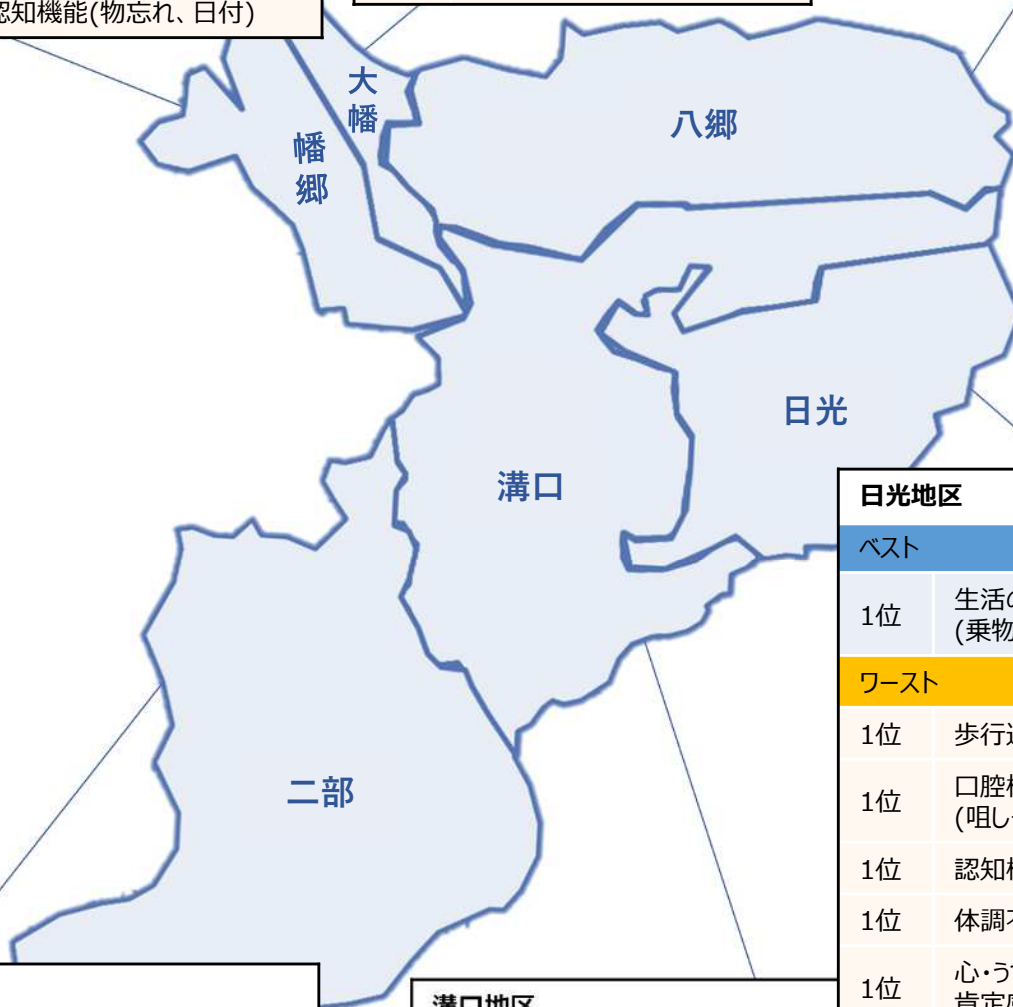


Ⅳ) 地区別マップ

幡郷地区	
ベスト	
1位	運動(週1回以上)
1位	転倒への不安
1位	下肢筋力(立ち上がり)
2位	生活の自立 (乗物、買い物、お金の管理)
ワースト	
1位	健康状態
1位	喫煙
2位	認知機能(物忘れ、日付)

大幡地区	
ベスト	
1位	認知機能(物忘れ、日付)
1位	口腔機能(むせ)
2位	口腔機能(咀嚼)
ワースト	
1位	人の相談にのる
1位	家族・友人との付き合い
1位	やせ(BMI18.5未満)
2位	食事(1日3食)

八郷地区	
ベスト	
1位	やせ(BMI18.5未満)
1位	外出機会の減少
ワースト	
1位	運動(週1回以上)
2位	下肢筋力(階段)
2位	転倒への不安
2位	体調不良時の相談相手、 人の相談にのる



二部地区	
ベスト	
1位	口腔機能(咀嚼、口渇)
1位	食事(1日3食)
1位	喫煙
ワースト	
1位	生活の自立(乗物、買い物)
1位	下肢筋力(階段、立ち上がり、 15分以上の歩行)
1位	転倒への不安
1位	外出(週1回以上)

溝口地区	
ベスト	
1位	体調不良時の相談相手、 人の相談にのる
2位	認知機能(物忘れ、日付)
ワースト	
1位	食事(1日3食)
1位	外出機会の減少
2位	体重減少、 やせ(BMI18.5未満)
2位	口腔機能(咀嚼)

日光地区	
ベスト	
1位	生活の自立 (乗物、買い物、お金の管理)
ワースト	
1位	歩行速度の低下、転倒
1位	口腔機能 (咀嚼、むせ、口渇)
1位	認知機能(物忘れ、日付)
1位	体調不良時の相談相手
1位	心・うつ(充実感の喪失、自己 肯定感の低下)

